

2017年8月21日

代表選挙立候補届出結果に関する公告

民進党代表選挙管理委員会
委員長 神本 美恵子

本日午前10時から11時まで、2017年9月の民進党代表選挙に対する立候補届出の受付を行った結果、以下の各氏が立候補の届出を行い、代表選挙管理委員会としてこれを受理いたしました。

したがって、これらの各氏を候補者とする代表選挙を実施し、一般党员およびサポーターならびに地方自治体議員による郵便投票、9月1日に開催される臨時大会における国会議員および国政選挙の公認候補予定者による直接投票によって、新代表を選出いたします。

1. 民進党代表選挙候補者（届出順）

前原 誠司
枝野 幸男

2. 公告への添付資料（候補者より提出されたものの写し）

各候補者の略歴・政見・推薦人名簿

衆議院議員 前原 誠司 略歴

1962年生まれ 京都大学法学部（国際政治 高坂正堯ゼミ）卒

1987年 財団法人松下政経塾第8期生として入塾

1991年 京都府議会議員選挙にて28歳で初当選

1993年 第40回衆議院議員総選挙において初当選

以降連続8期当選

民主党代表、国土交通大臣、外務大臣、民主党政調会長、

国家戦略担当大臣、海洋政策担当大臣、内閣府特命担当大臣、

民進党ネクスト財務・金融担当大臣等を歴任

現在、民進党「尊厳ある生活保障総合調査会」会長

ホームページ

<http://www.maehara21.com>

All for All

(みんながみんなのために)

～あらゆる生活者の不安を解消する～

「安心」の糸をつむいで「尊厳」の旗を立て
「分断」と「自己責任」の社会を乗り越える。

前原誠司政権公約

危機的な状況の中、党再建の先頭に立ち、政権交代可能な政治をつくる

I 基本姿勢

- 一 野党第一党の責任として、徹底して長期政権の政治や行政のゆがみを正す。
- 二 All for Allの理念のもと「自己責任社会」と決別し、自由、共生、未来への責任を旨とした将来の社会像（国民の選択肢）を明確に示す。
- 三 挙党体制を構築し、国民に期待され、信頼される執行部をつくる。政策論議や国会運営、選挙対策等において、我が党の主体性と主導権を確立する。
- 四 民進党の掲げる理念・政策の旗のもと、あらゆる勢力との協力関係を構築する。

II 基本政策

1 目指すべき社会像

私たちは、すべての生活者の「尊厳ある生活保障」の実現を内政の柱に据え、これに外交・安全保障の「(穏やかな)現実主義」を組み込むことで、命と暮らしを何よりも大事にする「私たちの家(社会)」を実現し、たくましく温もりのある国づくりをめざす。

(1) 「格差是正」から「尊厳保障」「品位ある命の保障」へ

人びとの苦難や不運を「自己責任」で片づけることなく、すべての生活者の基本的必要(ベーシックニーズ)を満たす。そのために持続可能な社会保障制度の確立に向けて改革を進める。

- 幼少期：子供の貧困などあらゆる不条理から子どもたちを解き放つ。幼稚園教育・保育の無償化と質の向上、子ども医療の総合化・無償化等を進める。
- 青年期～壮年期：人間の尊厳を回復するため、同一価値労働同一賃金、均等待遇の実現を始めとした働き方改革(開発)、高等教育の無償化及び自己負担軽減、職業教育及び職業訓練システムの強化を図る。
- 高齢期：健やかな超長寿社会を実現するため、介護施設・サービスの拡充、医療・介護・障がい・保育等の自己負担の上限を設定する総合合算制度の実現、AIやロボット技術などを駆使した新たなライフスタイルの実現を図る。
- 「品位ある命の保障(Decent Minimum)」：「尊厳保障」の土台を確かなものにするため、「生活保護」の「基礎生活保障」への転換、給付付き税額控除等による消費税の逆進性の緩和、住宅のセーフティネットの拡充、障がい者福祉の充実を行い、「品位ある命の保障」を実現する。

(2) 「成長依存」から「成長誘導」へ

「成長の行き詰まり」が「生活の行き詰まり」に直結する「成長依存の社会」、「人間を消費する経済」から脱却する。人間に共通するニーズを満たし、結果として成長にもつながる経済・社会構造への転換を目指す。

- 金融緩和一本足打法から脱却、人口減や高齢化を踏まえた社会改革に取り組む。
- 日本のエンジンとなる子どもの考える力を育むため、教育カリキュラムや教員研修プログラムの充実、ICTの利活用を進める。
- 生き方を選べる社会に向けて「日本版マイスター制度(ものづくりの担い手育成、若者の就業支援)」を整備し、ボトムアップ型イノベーションの実現をめざす。
- 「『均衡ある発展』から『多様な地域社会』へ」を旗印に、域内経済循環の促進、再生可能エネルギーの推進及びエネルギーの地産地消、これらに対する公的融資制度の拡充を図る。

(3) 税の本質を「取られるもの」から「安心を得るもの」に変える

財源の使い途を明確にし、負担の不公平性を正しつつ、財源問題の根底にある政府への不信を払拭する。

- 「社会保障・税一体改革」の反省の上に立ち、教育や住宅等をプラスした「尊厳ある生活保障」の旗のもと、国民の受益を明確にする。「財源」とのバランスを考慮しつつ、用途を明確にし、そのチェックや国民への説明機会を十分に確保する。
- 「租税間公平性の回復（税のベストミックスの実現）」を通して、互いに支え合う社会への信頼を高め、税の不公平感をなくす。
- 人々のベーシックニーズを満たすため、地方に共通するニーズを掘り起こすとともに、財源保障のため地方交付税だけに頼らない「地方共同税」の創設を構想する。
- 建設国債の投資対象経費の中身を転換することで、教育等の人的投資を可能とする「社会的共通資本債」への転換を図る。

(4) 「公」「共」「私」が響きあう社会

生活ニーズを「公」「共」「私」の三位一体で保障する基礎を構築する。

- 高齢者ケアから子ども、障がい者も含めた本来の地域包括ケアへ。
 - 事業主、利用者、地域をつなぐソーシャルワーカーの拡充、地域おこし協力隊の充実、入札方式の改革、ローカルベンチャーの育成など。
- 2 震災復興及び首都直下型地震等を含め防災対策に万全を期す。気候変動にともなう台風等の自然災害への対策強化を図る。
 - 3 国際協調主義のもと自由貿易を基調として国益の最大化を図る。
 - 4 違憲の疑いのある集団的自衛権の議論を白紙撤回し、専守防衛を旨とする現実的で抑制的な外交安全保障政策に徹する。同時に近隣諸国等と連携し北朝鮮の脅威に備える。
 - 5 恣意的な改憲論議と一線を画し、民進党の考え方をまとめるに当たっては、立憲主義に立脚し、冷静かつ現実的に憲法を論議する。
 - 6 持続可能な世の中の実現に向けて再生可能エネルギーの普及を図るなど、2030年代原発ゼロに向けてあらゆる政策資源を投入する。
 - 7 人権政策の推進、地域主権改革、男女共同参画社会の実現に向け積極的に取り組む。
 - 8 議員定数や選挙制度改革、政治資金のあり方等身を切る改革及び政治の信頼回復に全力を挙げて取り組む。
 - 9 代表選における推薦人制度の見直し、マニフェスト策定プロセスの改革（公開と地方議員、党員・サポーター、市民の参加）、公認候補者の「党設秘書」の新設など支援拡充、ブロック会議など地方議員と執行部の意見交換の活性化、地方組織の運営の自主性尊重、党営シンクタンク創設、活力ある人材育成・登用、野党時代における代表任期のあり方等、躍動感のある党運営に向けて、さらなる党改革を進める。

前原誠司推薦人

足立信也 阿部知子 大島敦
風間直樹 川合孝典 北神圭朗
黄川田徹 菊田真紀子 古賀之士
小林正夫 小宮山泰子 櫻井充
篠原孝 榛葉賀津也 原口一博
古川元久 伴野豊 牧義夫
牧山ひろえ 増子輝彦
松木けんこう 松野頼久 柳田稔
鷺尾英一郎 渡辺周

枝野 幸男 えだの ゆきお プロフィール

- 1964 (昭和39)年 5月31日 栃木県宇都宮市に生まれる (現在53歳)
- 1987 (昭和62)年 東北大学法学部 卒業
- 1991 (平成 3)年 弁護士登録
- 1993 (平成 5)年 日本新党候補者公募合格
旧埼玉5区より衆議院議員初当選
- 1994 (平成 7)年 日本新党を離党し新党さきがけ入党
- 1996 (平成 8)年 菅厚相を支え薬害エイズ問題の謝罪・和解を実現
民主党結党に参画
- 1997 (平成 9)年 民主党政策調査会長
- 2005 (平成17)年 民主党憲法調査会長
- 2009 (平成21)年 行政刷新会議「事業仕分け」統括役
- 2010 (平成22)年 内閣府特命担当大臣 (行政刷新) 就任 (3~6月)
民主党幹事長 (6~9月)
- 2011 (平成23)年 内閣官房長官 (1~9月)
経済産業大臣 (9月~2012年12月)
- 2013 (平成25)年 民主党憲法総合調査会長
- 2014 (平成26)年 民主党幹事長
衆議院8期目当選
- 2016 (平成28)年 民進党幹事長
- 2017 (平成29)年 民進党憲法調査会長

<著書>

- 「それでも政治は変えられる」－市民派若手議員奮戦記 (1998年)
「叩かれても言わねばならないこと。」 (2012年) 他

<趣味>

カラオケ

<座右の銘>

「和を以て貴しと為す」

<家族>

妻と二男 (双子)

<選挙区>

衆議院埼玉5区=さいたま市北区・西区・大宮区・中央区・見沼区の一部

<HP>

<http://www.edano.gr.jp>

枝野幸男は

『多様性を認め合い、困ったときに
寄り添い、お互いさまに支え合う。』

そんな日本を目指します。

私は、国民生活を守るため、安倍自民党の下で進んできた政治の流れを、一日でも早く反転させなければならないという、強い危機感を抱いています。そして、政権の担い手となりうるのは、民進党以外にないと確信しています。

政権の担い手となるには、個人の人気や一時のブームに頼るのではなく、幅広い国民の暮らしに寄り添う地域の基盤が不可欠です。地方自治体議員の皆さん、候補予定者の皆さん、党员・サポーターの皆さん、そして、それを支えてくれる支援者や応援団の皆さん。厳しい中でも旗を掲げて頑張っている皆さんこそが、民進党の宝です。私は、政権の担い手にふさわしい、さらに確固たる地域基盤を確立すべく、先頭に立ちます。

私たちは、自民党と明確に異なる、あるべき社会像を持っています。異なっているからこそ、政権の担い手となれます。第二自民党では、本物に勝てるはずがありません。民進党は何を目指しているのか、違いを鮮明にして、より明確な旗を高く掲げます。

私は、まだ 53 才ですが、危機に立ち向かい苦闘するリーダーを、何度となく、一番近くで支えてきました。その貴重な経験を、民進党にとって一番厳しい今こそ生かすことが責任であると決意し、初めての代表選挙に挑戦しました。

この代表選挙の目的は、安倍政権を倒すことです。安倍総理と本格的に闘う上で、私こそが最強の相手となりうるという自負をもって、全力で代表選挙に挑みます。そして、結果如何にかかわらず、皆さんと力を合わせて、民進党を前進させていく決意です。

日本のため、民進党のため、枝野幸男をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

平成 29 年 8 月 21 日

衆議院議員

枝野幸男

枝野幸男は

『多様性を認め合い、困ったときに寄り添い、お互いさまに支え合う。』

そんな日本を目指します。

「認め合い、寄り添い、支え合う」社会のために

高く掲げる三つのポイント

1. 自己責任と自由競争を過度に煽る政治から脱却し、お互いさまに支え合う仕組みを取り戻します。医療や介護の充実、子どもたちの可能性が等しく保障される子育てや教育の支援、失業や貧困、障がいや難病などに苦しむ人の下支えを進めます。非正規雇用を減らし、過労死を招く長時間労働を厳しく規制します。可処分所得を押し上げ、雇用を増やし、消費不況から脱却させます。
2. 一日も早く原発ゼロを実現するため、最大限の努力をします。原発ゼロ法案をとりまとめ、年内にも国会提出することを目指します。
「責任ある避難計画の策定」など、前提が満たされていない状況で、再稼働を認めることはできません。
3. 立憲主義を破壊し、専守防衛を逸脱した集団的自衛権の一部行使容認は認めません。これを前提とした憲法9条の改悪と、徹底して戦います。
自由と民主主義、国民の人権と暮らしを守るために必要な憲法改定があるのか。知る権利、解散権制約、地方自治の3項目を中心に、引き続き検討を進めます。

さらに、私が一貫して取り組んできた次の課題も、民進党の明確な姿勢です。

- 徹底的な行政の透明化-情報公開法、公文書管理法、特定秘密保護法の見直し
- 多様性を認め合う-女性や障がい者、性的マイノリティーの実質的な権利保障

地域基盤確立のために、選挙に勝てる体制を作ります。

- ◆ 総選挙に向けた財政支援などを、最大限強化し、前倒しします。
- ◆ 統一地方選挙対策の専門部局を設け、地方組織と緊密に連携、支援します。
- ◆ 連合等の応援団と連携し、参議院選挙に向けた候補者擁立作業を進めます。
- ◆ 地方の声を、政策決定プロセスに反映させる体制を作ります。

◇ 他党との連携は、民進党の理念のもとでの政策の前進が前提です。そして、民進党の支持者や応援団の理解が不可欠。その範囲の中で、最大限の効果を上げることに努力します。

枝野幸男 推薦人名簿

【衆議院】

赤松広隆
逢坂誠二
岡田克也
菅直人
近藤昭一
佐々木隆博
辻元清美
寺田学
中川正春
長妻昭
西村智奈美
横路孝弘

【参議院】

相原久美子
有田芳生
石橋通宏
江崎孝
大野元裕
斎藤嘉隆
芝博一
杉尾秀哉
徳永エリ
那谷屋正義
鉢呂吉雄